

道路資産の適切な管理のため、路面下の空洞調査を実施。補修の必要箇所を本年度上期に対応。～道路管理も対処療法型から予防保全型へ移行～

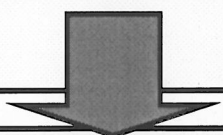
### 記者発表資料

今回の路面下空洞の補修は、道路舗装を道路資産の一部と捉え、その状態を客観的に把握・評価し、いつどのような対策を行うのが最適であるかを考慮し、計画的かつ効率的に管理することにより、更新時期の平準化と費用の最小化を図りながら、対処療法ではなく予防保全型の道路管理を目指すものの一環です。

これまで、千葉国道事務所の一般国道管理区間延長約308kmの車道及び歩道において、路面の陥没事故等の交通障害を未然に防ぐため、路面下空洞調査を実施してきました。

平成18年度調査の結果、車道部3箇所、歩道部37箇所の空洞を新たに確認しました。これらの空洞は、直ちに路面の陥没につながるものではない軽微なものでした。

これまで、路面に異状等が発見された空洞箇所については、緊急工事を実施するとともに、異状等が確認されていない箇所においても、順次補修を行ってきています。



平成19年度は、これまで確認されていた空洞とあわせて、未補修箇所の車道部28箇所、歩道部105箇所について、本年度上期を目標に順次補修を実施します。

また、平成19年度も路面下空洞調査を継続して実施し、補修が必要な箇所は、早期に補修することにより、補修費用の最小化や安全で安心して利用できる道路施設の管理を行います。

平成19年5月30日  
国土交通省関東地方整備局  
千葉国道事務所

#### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会 千葉県政記者会 千葉市政記者会

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 副所長 齋藤 厚【内205】  
【電話043-285-0311(代)】 機械課長 梶原竹生【内491】

## 1. 空洞調査について

- 千葉国道事務所で、管理している一般国道約 308km のうち 6 号(22.8km)、14 号(8.9km)、16 号(109.7km)、51 号(54.5km)、126 号(24.2km)、127 号(55.2km)、357 号(28.9km)及び 409 号(3.9km)において、車道及び歩道の路面下空洞による陥没事故等の交通障害を未然に防ぐため、これまで、路面下空洞調査を実施してきました。
- 空洞調査として車道調査は、専用車両を走行させ、レーダを用いて広範囲を迅速に調査する道路調査車による調査を実施しました。また、歩道調査も同様な、歩道調査車による調査を実施しました。さらに、これらの車道及び歩道の調査により、空洞が確認された箇所については、深さや厚さなどの空洞の規模を詳細に調査するスコープによる調査を実施しました。
- 今般の一連の調査で確認された空洞は、直ちに路面の陥没につながるものではなく、今後、空洞化が進行し、路面に大きなへこみ、ひび割れ、段差などが発生し陥没に至る前の空洞が小規模な段階のものであります。
- 空洞の発生原因には、地下埋設物(占有企業者:東電、NTT、ガス、下水など)や道路構造物などの周りからの土砂流出や施工後の転圧不足による施工不良、または、地盤の経年変化による圧密沈下などによる影響が考えられ、今後、占有企業者とも連携を図りながら対策に取り組むこととしています。

## 2. 空洞調査の結果と補修の状況

- 平成18年度調査(平成19年4月取りまとめ)において、車道部3箇所、歩道部37箇所の空洞を新たに確認しました。
- これまで路面に異状等が発見された空洞箇所については、緊急工事を実施するとともに、異状等が確認されていない箇所においても、順次補修を行ってきています。

平成19年度は、これまで確認されていた空洞とあわせて、未補修箇所の車道部28箇所、歩道部105箇所について、本年度上期を目標に順次補修を実施します。

また、平成19年度も路面下空洞調査を継続して実施し、補修が必要な箇所は、早期に補修することにより、補修費用の最小化や安全で安心して利用できる道路施設の管理を行います。

### 3. 空洞の概要

空洞調査により確認された空洞の最大の大きさは以下のとおりです。

車道部においては、路面からの深さ 70 cm、厚さ 60 cm、縦（車の進行方向）の長さ 2.8m、横（車の進行直角方向）の長さ 2.0m程度でした。

歩道部においては、路面からの深さ 20 cm、厚さ 30 cm、縦（車の進行方向）の長さ 1.4m、横（車の進行直角方向）の長さ 1.2m程度でした。

